



題字 足立区長

## 足立区民生・児童委員協議会だより

発行

足立区民生・児童委員協議会  
連合会長 中田貢弘  
編集 広報部会  
発行日 2006年7月1日  
〒120-8510  
足立区中央本町 1-17-1



青井小4年 大野正明 作

### 目次

心の健康 フェスティバル	2
東京都福祉局	3
自主研修	4
介護ってなあに	5
子育て応援団	6 7
民児協便り 編集後記	8

## 今後とも愛される広報紙づくりを

教育事業担当部長 斉藤幸枝



民生・児童委員のみなさまによる広報紙「さくら」、早いもので11号となりました。私は今、教育事業担当部長として、こどもたちに望ましい教育環境をつくることを仕事としていますが、この「さくら」第1号発行に関わったこともあって、毎回発行を楽しみにしております。

今からちょうど4年前、「民生・児童委員協議会の広報紙を是非発行したい」という中田連合会長の熱き想いと、平田部会長の発行への意気込みで、広報紙づくりがスタートしました。PTAや地域の

広報発行経験者、原稿を集める人、ワープロを打つ人、いつしか役割分担ができ、それでもみんなで編集方針が固まるまで侃々諤々、叡智を絞り切って発刊に漕ぎ着けました。

「さくら」は回を重ねるごとに記事も読み物としても充実してきました。今後とも格調高い面と身近で愛される面を併せ持った広報紙として継続していただけますよう期待しています。



3月4日、第10回「足立区こころの健康フェスティバル」が区役所で開催されました。

11時より2階ホールにおいて第十一中学校生徒による吹奏楽でオープニングとなりました。明るく楽しく演奏する方がたも応援する観客席も、ともに一体となった感がありました。

特に“南中ソーラン”は盛り上がりました。榎本実行委員長より「経済水準が様変わりしているなか、大変なストレスをかかえていると思います。障害・病を持つ方がたの社会復帰を応援していきたいとします」とのご挨拶があり、続いて、区長より自立支援法確立のお話がありました。その後、功績のあった方



がたに感謝状の贈呈が行われました。

12時より正面では模擬店が並び、アトリウムでは野点が行われました。またそれぞれのコーナーでは、温かみのある手作り作品が多数展示販売され大変なにぎわいでした。別のブースでは相談コーナーが設けられ、何人かの方がたが並んでいました。私たち民児協もエスカレーター横で民児協全員の協力で集めたバザー品を並べ、入場制限のもと販売を行いました。1時より2階ホールでは「命リセットうつ病を克服した私」という講演があり、シャルウィダンスの演出振付をされた Watari 氏がご自身の生い立ちや、プロダンサーとなり、後にうつ病を発症・克服されるまでの体験談「自分自身が四角四面な人間であったこと。もっと楽に生きた方がよい」ということを語られました。最後にみごとなブ

ロのダンスの披露があり、たくさんの方の拍手を浴びておられました。

年ごとに参加団体も増え、それぞれに趣向をこらし、どのコーナーも人気で、まさに“伝えよう・広げよう・心の声を!”のサブタイトルどおりのフェスティバルでした。

(17地区 塩田博子 記)

## 青年期の心のケアについて

最近、青年期の心について語られる際によく「キレル」という言葉を耳にします。この言葉は自分を抑える力（自己抑制）が効かなくなるというイメージで否定的に捉えられることが多いのですが、逆にようやく

「キレル」ことができるようになった、過度の負担に対してSOSをだせるようになったと考えた方がいい場合も少なくないように思います。最近の子どもたちはマイナスの感情を表



青井小 4年 向井かずほ 作

現することが苦手です。怒り・焦り・くやしきさ…、それらは人間として当たり前の感情ですが、そういうマ

イナスの感情を抑制してしまう傾向があるように思います。明るくて楽しそうにしていなければ負けといった心理がはたらいってしまうのかもしれませんが。ただそういった表現ができない感情がつもりつもって爆発し、「キレル」という現象が生じるように考えます。大切なのは自己抑制を強め「キレル」ことを防ぐのではなく、いかに安全に抑制を解く術を身につけるかということです。つまり、つらくきつい想いでも自然な感情表現を促すということだと思います。このほかにも現在、青年期の心の中では様ざまな問題が生じています。子どもが成長するには本人の力やそれを支える家庭や地域社会の存在が大切です。そんな中で病院は脇役として地域のお手伝いができればと考えています。

(東京足立病院 心理士 新垣多恵 記)

足立区は活動記録提出 100%継続を目指します

## 東京都福祉保健局・民生児童委員連絡会

4月21日、文京シビックホールにて民生・児童委員1,800名の参加により福祉局・民生児童委員連絡会が盛大に行われました。筒井地域推進課長の司会で、主催者側の挨拶として大塚俊郎東京都副知事は「大東京にふさわしい福祉・保健・医療サービスのため行政の架け橋として協力をお願いしたい」とのお話がありました。また大澤義行東京都民生児童委員連合会会長は「次世代の確かな安心のため、福祉改革をさらに推し進め、今年2月に福祉健康都市東京ビジョンを策定した。また来年は、民生委員制度設立90周年にあたり、東京で全国民生・児童委員大会が行われる」と話されました。続いて来賓挨拶として川島忠一東京都議会議長より「高齢化が異例の速さで進み、人口減少が現実となり、環境も変化している。そこで都では総額12兆4,322



大塚俊郎 東京都副知事

億円の18年度予算を計上した。オリンピックを東京へ誘致するための審議も終わったし、日本独自の文化や安全で清潔な政令都市東京を世界に示していく」と力強く話されました。次に朝比奈照雄東京都福祉保健局生活福祉部長より平成18年度予算について、また、川尻禮郎東京都民生児童委員連合会副会長から、東京都の重要施策に対する民生児童委員の取組みについての説明がありました。

第2部では、「地域で支える非行防止～児童自立サポート事業」と題し、村尾泰弘立正大学社会福祉学部教授に

よる事例を交えた講演がありました。そしてその後、主任児童委員、民生児童委員、児童福祉司の方がたの意見発表と続きました。最後に福田豊行東京都民生児童委員連合会副会長の閉会の挨拶で、会の幕が閉じられました。(19地区 大澤 稔 記)

## 13 地区民生・児童委員と同地区保護司の懇談会

去る2月18日上沼田町民館にて、江北地区の民生委員(15人)と保護司(5人)の合同懇談会を催しました。初めてのことで、自己紹介に始まり互いの社会的立場や活動の現況を確認しつつ、地域を基本とする家庭・学校の意見交換を行いました。この会が地域社会奉仕活動に資することを目的と

し、互いの役割を果たし連携しつつ、健全な明るい地域社会作りとそれぞれの人格と識見の向上に努力することを確認しました。私たち保護司会の呼びかけに、お忙しいところ気持ちよく大勢の民生委員の方がたに参加していただきましたことを感謝申し上げます。

(江北地区 保護司一同)



弘道小 6年 山崎彩華 作

### ぜにだいこ 銭太鼓で慰問を

平成17年12月期自主研修会にて、みんなで心をひとつにして楽しく、また他の方も楽しくなるようなものがないのではと、銭太鼓が体にもいいし全員でやることに決めました。どういものかわからないので最初何人かでやって見せてということになりました。急きょ猛練習して、1カ月後の新年会のときに初舞台ということになりました。その後、扇小学校よりお声をかけていただき音楽祭に出演してまいりました。みなさん大変一生懸命になり、銭太鼓を自分達の手製でお互いに協力しあいながら製作し、とても素晴らしい物が完成いたしました。

銭太鼓とは2本の棒を使います。1本の筒の中に6



個の5円玉が入っており、筒2本を合わせると5円玉が12個になります。12個の数は12カ月を表し、1年間の幸せを呼ぶとか幸せをもたらすという言い伝えがあるそうです。右手に持つ赤色の銭太鼓は天の太陽を表し、左手に持つ白色の銭太鼓は地球を表しているといわれます。今みんなで練習が始まりました。このたび在宅介護支援センター江北から、是非みなさんに見せてほしいとお声をかけていただきました。一生懸命練習してみなさんに楽しんでいただけるようにがんばっていこうと思っております。

(13地区 八木富美子 記)

# 東京都足立児童相談所所長を迎えて

## 虐待相談事例 非行相談

4月20日、常東地区の自主研修会が、千住福祉事務所永田所長、足立児童相談所田口所長をお迎えし開催されました。課題を抱える親子の事例をロールプレイング形式で意見交換をし、活発な話し合いがもたれました。

田口所長の具体的なお話やご指導により、日頃の活動のヒントが得られました。個人情報保護やプライバシーの配慮など重要なことがあります。いつも地域の状況や情報をより早くキャッチし、たくさんの親子と知り合い信頼関係を築いていくことが大切と実



感じました。

(常東地区 長塚敏子 記)



中川東小 3年 関口ゆうせい 作

## 高齢者福祉施設見学 ハピネスあだち

本年4月1日の開設予定に先立ち、3月2日、内装工事をしているなか、13地区民生・児童委員14名と近隣民生委員4名、計18名が内覧させていただきました。

この特別養護老人ホームは、平成15年に東京都が足立区江北3丁目都営住宅の跡地に建設したものです。5階建て全室が個室で150室、ショートステイ用は20室あり、デイサービスは1日40名を収容でき

国内最大の小規模生活単位（ユニットケア）型です。

内覧していて迷子になりそうな広さでした。この他に地域交流の場もすばらしく、ステージのあるホール、ロビー、大小の集会室、会議室、宿泊可能な研修施設などがありました。私たちの地域にこのような立派な施設ができたことは大変嬉しく、感動しております。

(13地区 浅賀和子 記)

## とびくす

### ドングリよ、大きく育て！

昨年の10月、1・2年生が「佐野いこいの森」に、ドングリを拾いに行きました。400年前は、スタジイ林だったのですが、今は数本しか残っておらず、いつのまにか竹林になりました。子どもたちが、拾ってきたドングリをポットに植え、育てたスタジイの苗は2年間で30cm位になります。2年後には、植樹祭が計画されています。子どもたちが育てた苗が、「佐野いこいの森」を復活させ、緑豊かな400年前のスタジイ林の実現へと夢とロマンが広がります。子どもたちが

大人になったとき、自分たちが育てた「ふるさとの森」を復活させた思い出と喜びが眼に浮かびます。

(中川北小学校 元校長 宮脇 和 記)

(注) スタジイ：ブナ科の常緑喬木の一種。実は先の尖った卵円形。(広辞苑より)



## おもしろい漢字

### 頭のタンスの ひきだしあけて

乙 おつによ (しつりばり) 部

なりたち 春に草木の芽が曲がりくねって出る形  
乙が漢字の右側の要素になるとき「しつりばり」部となる

### 九 乞 也 乱 乳 乾

八 はちがしら部

なりたち 分かれて、たがいにそむく形

### 今 公 共 典 兼

三省堂 新漢和辞典より



## 介護相談部会

部会の活動で、地域のグループホームに、月2回訪問しています。認知症の高齢者との接し方に戸惑いを感じながら、お話、歌、トランプ遊び等のお相手をしています。また、買い物や柴又へのバス見学に同行したりで楽しく過ごします。この活動から、スタッフのかざり気のない話しかけ、細やかな心遣いなど、心に残ったプロの業を勉強させていただきました。相手が助けを必要とするときだけ手を添え、見守り、心のお手伝いをすれば良いのかなと感じました。高齢者の福祉施設は地域の中で孤立せず、一人ひとりが尊重され、

楽しく生活できることが目的とされています。私たちの訪問から、地域の学校や子どもたちへと輪が広がっていきました。施設側からも大変感謝され、意義ある活動に参加していると自負しています。



辰沼小 5年 渡部 愛 作

(佐野地区 金子みき子 記)

## 地域包括支援センター関原の介護予防体操

毎月第4火曜日の午前中、当センターでは高齢者の方がたの笑顔がこぼれ、元気なかけ声や笑い声が響きます。

16年度から「ワン！ツー！スリー！はい！」を合言葉に始めた介護予防体操。当初は2カ月に1回、17年度からは参加者の要望もあり、毎月1回実施しています。体操参加者は徐々に増え、現在登録者は20名余で、毎月15名前後の方がたが参加しています。

「他のことは忘れるけれど、この体操だけは絶対忘れないの」「明日は体操教室だと思うと朝元気に起きられるの」などお話も弾み、体操が楽しみになっているようです。

定例的に開催しているあんしんネット連絡会において、介護保険制度についての学びや、介護保険施設の見学などをとおして介護予防の大切さを痛感しました。如何にして地域と協働し介護予防の輪を広げていくか。委員の方がたも、まずは体験と介護予防体操に積極的に参加していらっやいます。



今年度は、協力委員さんの働きかけで梅田7丁目の熟年クラブに介護予防体操の拠点ができました。大変嬉しいことです。

介護予防体操の継続により、地域の高齢者の方がたがいつまでも自立した生活ができるよう、体力の「維持」から一歩進めて「向上」を目指した取り組みをしています。

職員一同がんばっていきますので宜しくお願いいたします。

(地域包括支援センター関原 所長 奥澤加恵子 記)

悩めるものをすくふべきはわがつとめなり

樋口一葉(「一葉日記」より)

## さくらにゅーす

### 第六ブロック OB会 卒寿を祝う



**祝** 第六合同渕江地区・竹ノ塚地区では、10年前OB会を結成し規約をつくり、正副会長・各役員を設置して、渕江竹ノ塚OB会と合同で、新年会と日帰り旅行を実施しております。

本年も、2月4日に竹ノ塚フラワーガーデンにおいて、行政と第六合同会長をお迎えして新年会を開

催しました。2部の懇親会席上で、「卒寿」を迎えられた小倉甚三郎様に記念品と花束の贈呈をいたしました。毎回OB会行事に出席され、後輩民生委員に心温まるお言葉をいただき、会員一同感謝の気持ちで一杯になります。今後もますますご健康に留意されて、地域の有識者としてご活躍されることをご祈念申し上げます。また、末永く、この会が継続していくことを願っております。

(竹の塚地区 浅井米子 記)



## PTAの新しい形 スクールサポーター

第二中学校と第十六中学校が統廃合され新設校として千寿桜堤中学校が生まれました。

新設校のPTA活動は、保護者の皆様に負担の少ない協力をお願いしようと、多くの学校にある専門部をつくらずにスクールサポーターを設けることにしました。サポーター登録していただいた保護者の方には、必要に応じて各種の学校の行事をはじめとする学校への支援活動を実施していただいています。保護者の方からは「協力しやすい」「無理な活動がなくてよかった」などと好感を得ましたが、学校との話し合いを重ねる中で、「はやく活動できるPTA」「継続的に活動できるPTA」を求める声が強くなってまいりました。

近年、子どもを取り巻く環境はきわめて厳しい状

況にあります。初期行動が遅れたために取り返しがつかない問題になる危険要因も多く存在します。また、学区がなくなり学校と地域のつながりが弱くなってしまおうという危惧もあります。このような状況の中で、学校よりPTAに求められる声には真摯に耳を傾ける必要があります。

PTA活動の根本は「子どもの健全育成」にあります。そこで18年度からは校外委員と学級委員の専門部を設けることにしました。今後とも学校や地域の方がたとの話し合いを深めて、保護者と教職員、地域が協力し、子どもの健全育成を図り、よりよいPTA活動のあり方を求めていく所存です。

(千寿桜堤中学校 PTA会長 鈴木和子 記)



弘道第一小 2年 川田けんた 作

## 小中一貫教育 興本扇学園

最近の教育に関する報道を見ると、小中一貫や中高一貫といった「教育の連続性」に関する新たな取り組みが数多く紹介されています。この4月、興本小学校と扇中学校が足立区初の小中一貫教育校「興本扇学園」として開設しました。この取り組みは、平成16年6月に小中一貫教育推進委員会の設置から始まりました。この推進委員会は、両校の開かれた学校づくり協議会を中心として構成されました。統一校名や校章

のデザインを協議するなど、地域と学校の協働による新しい学校づくりであったといえます。

私は、4月6日の「興本扇学園」の開設式において、教育委

員会の告辞を述べさせていただきました。その中で「1年生から9年生までみんな仲良く、元気で楽しく学べる学校」に加えて、この学園ができたのは学校・地域・保護者の方の多大なご尽力やご苦勞によるものであることを強調いたしました。義務教育の在り方を大きく変える先駆的な取り組みが始まる今、改めて感謝の言葉を申し上げる次第です。

さて、「興本扇学園」では今年度から義務教育9年間でI期(1~4年)、II期(5~7年)、III期(8~9年)に分け、一貫したカリキュラムによる、個に応じた指導によって「中1ギャップ」を解消するための教育活動を進めます。

教育委員会としては、組織をあげてこの教育改革プログラムを促進し、保護者や児童・生徒の期待に応えていきます。

(教育委員長 國井清伸 記)



中川北小 4年 池田圭太 作



## 子ども見守り隊

子どもたちを巡る危険なニュースが伝えられる昨今です。関原小学校校外委員会では、児童の通学・遊びの安全を最優先に「通学路危険な場所」のアンケートを実施しました。夏休みに先生とパトロール調査を行い、商店を中心に「地域の子どもを皆で守ろう」のポスター掲示をお願いしました。保護者の自転車には、「見守り隊」「パトロール中」のステッカー装着をお願いしました。アンケートとパトロール結果を元に「ヒヤリマップ付見守り隊情報」の小冊子を発行しました。

親子で分かり易く読んでいただけるように工夫しました。「地域の子どもは地域で守る」を合言葉に、子どもたちが安心して過ごせるように、地域の方がたにもさらに協力していただけるように努力していきます。

(関原小 PTA 土屋敦子 記)



## 子どもを犯罪から守るために

子ども「千住こどもを育む地域連絡会」の活動拠点は千住児童館です。近年、幼児や小学校低学年の児童の誘拐殺人等が多発しております。幼い子どもたちの安全が心配されている今日、学校・PTA・地域社会が一体となって子どもたちの安全確保に力を注いでいかねばなりません。私たちは本年度の活動計画の中に、地域安全マップ作りを取り上げました。犯罪学がご専門の小宮信夫先生に正しいマップ作りの指導をしていただきました。先生のお話では、犯罪は原因論と機会論に分けることができ、犯罪の原因を調べるのではなく、犯罪の起こる状況や環境を調べることで、犯罪を減らしたり、回避することができるとおっしゃっていました。そこで私たちは安全マップ作成委員会を発足させました。そ



して子どもたちと一緒に地域に出て、危険な場所や犯罪の起きやすい環境「入りやすい場所」「見えにくい場所」等を見つけてマップに表しました。この作業を通じて子どもたち自身が危険回避能力を身につけることが一番大切であると感じることができました。また、子どもたちがいきいき育つ街にするには、地域の目も必要であると思います。登下校の時間帯などには、お年寄りの力をお借りするのも大切だと考えました。このような子どもたちを守る地域社会の構築が必要です。三世代が協力して、安全・安心に楽しく住み続けられるまちづくりをしていきたいと思っています。

(子どもを育む地域連絡会 会長 松本捷三 記)

## さくらにゅーす

### 中島根小の校庭の一部芝生化

今春、中島根小学校の校庭が一部芝生化されました。これは、ヒートアイランド化を防ぐために、都内30校の公立学校の校庭を芝生化するという都の施策によるものです。

中島根小では、運動会の際の観覧席に当たる部分が芝生化されました。緑のカーテン（壁面緑化）と相まって、ますます緑豊かな学校になります。また、スプリンクラーも設置され、校庭の土ほこり対策にも有効です。

なお、芝生のメンテナンスについては、「芝生をはぐくむ会」（櫻井忠義会長）が中心になって行っ

ていただくようになりました。芝生の上を裸足で遊び回る子どもたちの姿を見ることを今から楽しみにしています。

(中島根小校長 伊藤保幸 記)



中川小 6年 山口大介 作



# 民生・児童委員協議会からのお知らせ

日 程	会議名	場 所
7月10日(月)	会長協議会	千住福祉事務所2階会議室
8月23日(水)	全員研修会	西新井文化ホール
9月8日(金)	会長協議会	区役所12階会議室
9月11日(月)～14日(木)	合同地区協議会	区役所13階会議室
10月3日(火)	全体食事会	東京會館(ローズルーム)
10月13日(金)	会長協議会	区役所13階会議室

## 掲載児童絵画の校長先生の感想

民生・児童委員の皆様には、児童の健全育成や地域・家庭の問題などで地域・家庭・学校のパイプ役となってご指導いただき、心から感謝申し上げます。広報紙「さくら」では、児童の絵を掲載していただいております。児童の絵がそれぞれのページに地区や学校のバランスを考慮して掲載されており、さらにその絵を通して児童

の心が純粋に表現されていることがすばらしいと思います。読み手にとっては、文章だけでなく、児童の健全な心が反映されている絵を見ることで、さらに民生・児童委員の役割を再認識するのではないかと思います。

これからも、児童の心が表現されているポスターやイラストなどの掲載を通して、広報紙「さくら」の紙面が充実されることを期待しております。  
(千寿常東小学校 高岡正見校長 記)



掲載絵画展示  
区役所ロビー

「さくら」を盛り上げてくれた  
力作がずらり



民生係に転入です  
よろしく申し上げます

船水江里さん

## 全員で校庭を雑巾がけ



5月28日は千寿常東小学校の運動会でした。昨夜来の雨が残り、開始前に児童・先生・保護者・来賓全員で校庭の水を雑巾で吸い取り、全員参加の運動会が開始されました。

(常東地区 宮本勝男 記)

## 編集後記

4月から介護保険制度の内容が一部改正され、「介護予防サービス」等が導入されました。要介護状態にならないよう、できる限り予防と自立を目指して努力していただきたいと思ひます。今回、原稿・絵

をお寄せいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。部員一同、より良い広報誌「さくら」を目指してがんばっていきます。ご協力くださいますようお願いいたします。

(広報委員 内藤久子 記)

広報紙 掲載絵画の展示を行います 会場 区役所ロビー 7月18日(火)13時～28日(金)13時

■皆様の原稿を募集いたします。次号発行予定日 11月1日  
原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。

- |                  |     |       |     |       |     |       |       |       |    |       |     |       |     |       |      |       |        |        |        |        |        |       |         |      |       |        |        |        |         |        |        |         |         |
|------------------|-----|-------|-----|-------|-----|-------|-------|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|---------|------|-------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|---------|---------|
| 広<br>報<br>部<br>会 | 部会長 | 平田 幹明 | 副部長 | 高野 季男 | 会 計 | 宮本 勝男 | 須田 陽子 | 飯泉 節子 | 書記 | 大 沢 稔 | 編 集 | 細井 力造 | 校 正 | 田中 榮一 | 編集委員 | 渡邊 正勝 | 川嶋 恵美子 | 角田 千恵子 | 茂出 木幸子 | 森脇 久仁子 | 田中 千恵子 | 塩田 博昭 | 北 嶋 昭 夫 | 校正委員 | 小 菅 實 | 大久保 義子 | 松本 はな子 | 大城 忠 男 | 山 崎 勝 子 | 内藤 久 子 | 加藤 喜代子 | 野 辺 陽 子 | 下 田 尚 保 |
|                  |     |       |     |       |     |       |       |       |    |       |     |       |     |       |      |       |        |        |        |        |        |       |         |      |       |        |        |        |         |        |        |         |         |